

## ヨーロッパ産業遺産ルート(ERIH)における産業遺産の保存と活用

### ルール地方における産業文化ルートの歴史と展開に着目してー

石田正治 オリバー・マイヤー

#### 1. はじめに

ヨーロッパ産業遺産ルート European Route of Industrial Heritage(ERIH)は、ヨーロッパの産業遺産の観光情報ネットワークである。このネットワークは、産業の歴史 history of industry は、ヨーロッパの共通の歴史であるという認識のもとに、その歴史の証としての産業遺産を観光資源とし、各地に点在する産業遺産をルートとして結んだ、欧州最大の文化ネットワークである。また、観光資源とすることで、産業遺産の保存と活用を積極的に推進し、産業遺産による地域再生を支援している。

ERIH は、30 か国に 300 人以上のメンバーがいる ERIH 協会によって運営され、2019 年以來「欧州評議会の文化的ルート」となっている。ちなみに ERIH®は欧州連合の商標として登録されている。

本稿は、ヨーロッパ産業遺産ルート(ERIH)における産業遺産の保存と活用に関する方策についての総合研究の一環として、ERIH の原点であるドイツ、ルール地方 Ruhrgebiet の「産業文化ルート Route der Industriekultur」の、現在の ERIH に至るまでの歴史と概要、管理と運営(マネジメント)、その成果と課題について述べる。

#### 2. ルール地方とルール地方連合

##### 2-1. ルール地方 Ruhrgebiet と工業化の歴史

ルール地方 Ruhrgebiet は、ドイツ西部、ラインラント・ヴェストファーレン工業地帯(ライン・ルール経済圏)の中核をなし、ヨーロッパ最大の工業集積地域である。行政的にはルール地方連合(RVR)に属する 11 都市、4 郡から成り、4435 平方キロメートルの地域に約 560 万(2019)の人口を擁する。

ルール地方に良質な石炭が採れることは、13 世紀から知られているが、本格的な石炭採掘が始まるのは産業革命期の 19 世紀からである。また、産業革命で生まれた蒸気機関や近代製鉄所は石炭を大量に必要としたため、石炭は工業化の重要な資源であった。

工業化の核となったのは、18 世紀後半に、オーバーハウゼンやエッセンで製鉄が開始されたことである。当時の製鉄では、鉱石から鉄を取り出す燃料として、木炭が用いられていた。19 世紀に入るとルール地方はプロイセン王国ライン州となり、ツォルフェライン炭鉱 Zollverein Coal Mine を中心にルール地方各地で石炭が掘られるようになり、1850 年頃には炭坑の数が 300 に達している。石炭は主にコークスに加工され、そのコークスを利用して高炉で製鉄が行われ、さらに鋼や各種鉄製品に加工される。こうして、ルール地方各地で、炭坑、コークス工場、製鉄所、さらには鋼鉄を加工する工場が発展し、ドイツ屈指の重工業地域が形成された。この結果、ルール地方の人口が爆発的に増加することとなる。

1870 年に、プロイセン王国を盟主とするドイツ連合軍が普仏戦争でフランスに勝利し、鉄鉱石産出地のアルザス＝ロレーヌ地方を領土とするドイツ帝国が生まれたことは、このようなルール地方の発展をさらに推し進めることとなった。ドイツ帝国によってドイツは広大な統一経済圏を得、豊富な石炭を産するルール工業地帯を中心に、工業力は急速に高度の水準に達し、一流の帝国主義国家へと発展していく。その過程で行われた兵器の生産は、ルール工業地帯をさらに発展させていった。ドイツ帝国皇帝ヴィルヘルム 2 世の性急な拡張政策は第一次世界大戦の一因となった。

第一次世界大戦後のワイマール共和国時代を経て、ドイツ・ナチス時代にもルール工業地帯は、ドイツで重要な工業地帯であった。そのため、第二次世界大戦では、英米軍の戦略爆撃の攻撃目標となり、壊滅的な打撃を受け、工業機能は麻痺した。

第二次世界大戦後、米英仏の占領地域の西ドイツは統合して経済協力開発機構(OECD)に加盟することになったが、ルール地方については産出資源の石炭を米英仏とベネルクス三国、そして新設される西ドイツ政府の管轄下に置き、管理機構を設置することが定められるなど分離した扱いが行われた。

1948年11月28日、ルールの石炭資源を管理するルール国際機関（IAR）の設置が定められ、ルールの国際管理がスタートしたが、それはあくまで占領中の暫定的なものとなった。ベルリンやライプツィヒ、ドレスデンといった東側の工業都市を失った西側では、ルール工業地帯の重要性が相対的に増大した。西ヨーロッパの重工業の中心として、復興が急速に進んだ。

ルール工業地帯をはじめ、西ヨーロッパの鉄鋼業発展のため、さらに地下資源の争奪のための紛争を防ぐため、1951年にパリ条約が調印されて1952年にフランス・ベネルクス三国と西ドイツが参加して欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）が結成され、ルール国際管理は正式に終了した。

欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）はお互いの石炭と鉄鉱石を融通するのみならず、生産・価格・労働条件などの共同管理をも行うものであった。1953年にゲオルク *Gemeinschaftsorganisation Ruhrkohle* という名前で新たな石炭の販売センターが発足した。ゲオルクは六つの共同販売所の親会社であり、ライン・シンジケートに近い役割を果たした。1956年3月にゲオルクは解散し、六つの共同販売所は二つずつがそれぞれ合併した。しかし、1957年3月25日にはローマ条約（欧州経済共同体、欧州原子力共同体）が決まり、石炭危機が始まったことにより、ルール地方の成長は鈍化し、石炭産業の衰退が始まる。当初期のピークであった1963年には、閉山により、約1万人の炭鉱労働者が職を失っている。その後もデモや炭坑ストライキが行われ、ルール地方各地で多数の炭坑が閉鎖され、同時に、多数のコークス工場や製鉄所も閉鎖されている。残る炭坑の数は、1998年には11ヶ所、2007年には6ヶ所となっている。2018年12月21日、ルール地方最後の無煙炭炭鉱であったプロスペル・ハニエル炭鉱が閉山した。

19世紀以降、この地域を急激に発展させた地勢的条件は、交通の便とルール炭田の豊富な炭層である。交通は歴史的な東西軸ヘルウェーク *Hellweg* と南北軸ライン川を基軸として、鉄道網、運河網、高速道路網が発達している。炭層はルール溪谷より3%の傾斜角で北部に広がり、1830年代の深部採炭の開始は炭鉱業と鉄鋼業の結合を可能にして、重化学工業の巨大な中心地が形成された。その後、産業構造の転換が立地移動を伴って進行し、炭鉱業はルール石炭(株) (1968 設立) に集約され、鉄鋼業はライン川沿いに集中した。また重工業を補完ないし代替する新部門として、石油精製、石油化学、アルミニウム精錬、自動車、電機、繊維等の諸工業が移植された。膨大な工業用水需要と廃水処理に対応するため、ルール、リップ、エムシャーの三河川を管理する多数の水利協同組織が生み出された。

石炭産業が斜陽となって以降、ルール地方では「構造変化」が合言葉となり、電気・電子や情報産業の発展に取り組んでいる。しかし、これらのハイテク産業の中心はミュンヘンやシュトゥットガルトなどドイツ南部にあり、南部地域では人口も増加傾向にある。一方、ルール地方は失業率が高く、人口が減少している都市が多く、高齢化も進行している。各都市がこれらの問題に対し様々な方法で対応を進めているのがルール地方の現状である。

このルール地方の地域再生と活性化のひとつの方策が産業遺産を観光資源として活用する「産業文化ルート」である。

## 2-2 ルール地方連合

ドイツの最大の行政区分である州（独: *Land*、ドイツは16州）の下位の行政区分として県

（独: *Regierungsbezirk*）がある。ここには州政府の内務省を上級官庁とする県庁（*Regierungspräsidium*）が県行政を所管し、県知事（*Regierungspräsident*）がそれを監督する。県知事は公選ではなく、州政府から派遣される行政官である。これ故に県行政長官とも呼ばれる。現在ある *Regierungsbezirk* は「行政管区」あるいは「行政区域」



図1 ルール地方連合 RVR

とも訳される。

ルール地方 Ruhrgebiet は、図1に示すように、ノルトライン＝ヴェストファーレン州の行政管区では、デュッセルドルフ行政管区、ミュンスター行政管区、アルンスベルク行政管区と、三つの行政管区にまたがっている区域である。このルール地方は、欧州最大のルール炭田があり、ドイツ最大の工業集積地帯であり、それゆえに、1920年にルール地方を特別の行政管理区とする、11都市4群からなるルール炭田地区都市連合 Siedlungsverband Ruhrkohlenbezirk (SVR)が発足した。1979年に名称変更して Kommunalverband Ruhrgebiet (KVR)となり、さらに2004年に名称を変更して、Regionalverband Ruhrgebiet (RVR)「ルール地方連合」となって現在に至る。ルール地方連合の本部はエッセン市 Essen にあり、後述の産業文化ルートを管理、運営しているのは RVR の産業文化(遺産)課 Referat Industriekultur である。

### 3. 産業文化ルート

#### 3-1 産業文化ルート誕生の契機

産業文化ルート Route der Industriekultur が生まれる契機となったのが、国際建築展 (IBA ; Die Internationale Bauausstellung) が1989年に IBA Emscher Park として開催したことである。

IBA は、1901年からドイツで開催されている大規模な展示会で、イノベーションを発表するのが通例であり、現在まで行われている。IBA では、特定の地域の多種多様な都市計画や社会問題に対応して開催され、IBA Emscher Park は、衰退したルール地方の産業造に変化と改革を与えることを目的として開催された。新しい地域構造と開発計画は、住宅や都市生活の話題をはるかに超えた地域的アプローチによって特徴付けられた。IBA Emscher Park プロジェクトでは、IBA の歴史の中で初めて、景観デザインと建築というコンセプトが地域のアイデンティティを構築するために登場した。

ルール地方の自然景観は、工業化と人口増加のために、断片化し、しばしば変化し、いくつかの場所で破壊された。景観公園のコンセプトは、保存された産業前の文化的景観の領域、1920年以降に定義された地域の緑の回廊の領域、産業景観、ポストインダストリアル景観など、異なるオープンスペースを組み合わせた新しいタイプの公園を作り出すことであった。

IBA Emscher Park で10年の期間を要して開発されたエムシャー景観公園 Emscher Landschaftspark は、総面積約450平方キロメートル地域公園で、1920年代の7つの「地域緑の回廊」のアイデアを取り上げ、1970年代に作成された地区公園をネットワーク化している。20の都市と2つの郡を含むこの景観公園のコンセプトは、合計178の完了したプロジェクトと248の進行中または将来の個々のプロジェクトで構成されている。この個別プロジェクトのひとつが本稿で述べる「産業文化ルート」である。

エムシャー景観公園の建設とネットワークは絶対的な目新しさである。産業荒地は自然の隠れ家と宣言され、残りの産業の地域は新世代の風景の機会として再定義され、丘(ボタ山)はランドマークとなった。新しい形の景観計画と景観建築を求めた産業景観が出現した。その目的は、使用空間の取り扱い方の根本的な変化を促進することであった。この地域の開放と積極的な取り扱いは、産業遺産の再活用を生み出し、以前は産業衰退の構造的兆候として見られていた産業遺産は、今日のルール地域の都市景観の商標であるユニークでアイデンティティを生み出す建物(構造物)となった。

世界的に、IBA エムシャー景観公園は、古い工業地域や施設への新しいアプローチのためのオリエンテーションを提供しました。ノルトライン＝ヴェストファーレン州では、その後の構造プログラムや文化プロジェクト「リージョナル」、欧州文化首都「RUHR.2010」のインスピレーションでした。

IBA Emscher Park プロジェクトの推進機関はノルトライン＝ヴェストファーレン州である。州の資金に加えて、連邦およびEU資金も出された。合計で40以上の資金調達プログラムは、IBA Emscher Park のプロジェクトに資金を提供するために目標を再構成した。IBA はスポンサーではなく、開発のモデレーターである。

#### 3-2 産業文化ルートの概要と管理運営

産業文化ルートは、Regionalverband Ruhr (RVR) のプロジェクトとして1999年に開始された。エムシャー景観公園を中心として、ルール地方に多数存在する産業遺産や産業技術系の博物館をネットワークと結び、観光資源としたものである。

産業文化のルートの中核は、25 のいわゆるアンカーポイントです。それらは産業文化史の多様性を表しており、特に訪問者にとって重要な産業遺産や博物館は、アンカーポイントに指定し、産業文化ルートの情報発信地としている。

産業文化ルートの中で、炭鉱のぼた山のように、そこにいけば産業景観としてパノラマビューの望める地点は、パノラマビューポイントとし、17 の地点がパノラマビューポイントに指定されている・

ルールでは、産業の発展と共に人口も急激に増加したが、労働者のための住宅街が各地に形成された。現在、産業文化ルートには 13 の町・地域が計画的につくられた町として指定されている。



図2 ルール地方の産業文化ルート、ルートは実在の道ではなく概念的なものである。

産業文化ルートは、ルール地方の全体の産業遺産の文化ネットワークであるが、その中に 28 のテーマ別ルートを設定し、訪問者に専門的に深い知見を体験できるようなルートとして情報発信がなされている。

産業文化ルートは、ルール地方連合 RVR の産業文化(遺産)課が管理運営している。

### 3-3 アンカーポイント

産業文化ルートのテーマ別ルートの拠点となる施設や博物館、産業遺産がアンカーポイントである。来訪者は、アンカーポイントで、ルール地方の産業文化と歴史に関するさまざまな情報にアクセスすることができ、また資料やガイドブック、文献などが提供され、テーマ別ルート散策の手引きとなる。特に重要なアンカーポイントにはビジターセンターが置かれ、そこでは産業文化ルートのすべての情報が提供されるようになっている。アンカーポイントには、レストラン、カフェなどがアミューズメント施設も併設されている。

産業文化ルートには、2020 年現在、25 のアンカーポイントがあるが、ここではビジターセンターが置かれているアンカーポイントについて述べる。アンカーポイントの一覧は、表 1 を参照。

#### (1) ツォルフェライン炭鉱業遺産群 Zeche Zollverein XII

アンカーポイントで中央ビジターセンターも置かれているツォルフェライン炭鉱業遺産群は、エッセンにある産業遺産で、2001 年にはユネスコの世界遺産に登録された。

ツォルフェライン炭鉱は、デュイスブルク生まれの企業家フランツ・ハニエル Franz Haniel によって設



立された。ハニエルは、製鉄業のための  
コークスを捜し求めていた。彼がカタ  
ンベルク地方 (Katernberg, 現在のエッ  
セン郊外) のシェーネベック  
Schönebeck を試掘してみた結果、そこ  
に膨大な石炭層が眠っていることが明ら  
かになった。この石炭層は、1834 年に結  
成されたドイツ関税同盟 (ツォルフェラ  
イン) にちなんで後に「ツォルフェライ  
ン」と名づけられた。採炭は 1851 年か  
ら 1986 年 12 月まで行われた。1950 年  
代後半からの数十年は、この施設群の二  
部門であるツォルフェライン炭鉱とツォ  
ルフェライン・コークス工場 (1957 年か  
ら 1961 年に建造され、1993 年に閉鎖)  
は、ヨーロッパ最大のものであった。

1932 年に開かれたバウハウス様式の第  
12 採掘坑 (Pit 12) は、建築上からも技術上からも傑作と呼べるものであり、「世界で最も美しい炭鉱」と  
の評価を受けている。

世界遺産ツォルフェライン炭鉱業遺産群の保存・管理はツォルフェライン財団が行っている。



【写真 1】ツォルフェライン炭鉱の立坑 XII  
(2019/08/24 筆者撮影)

### (2) ツォレルン炭鉱 II/IV Zeche Zollern II/IV / ドルトムント・ヴェストファーレン産業博物館

ドルトムントのツォレルン炭鉱 II/IV は、ヴェストファーレンの 8 つの産業博物館のひとつで、産業文化  
ルートのアンカーポイントであるとともに、ビジターセンターが置かれている。

ツォレルン炭鉱 II/IV は、1898 年に立  
坑 I の換気塔が立坑 II として使われるこ  
とになり、1900 年から 1902 年にかけて  
立坑 IV が建設された。1902 年に採掘を  
開始し、1969 年に閉山となった。

当時、ツォレルン炭鉱の中央機械ホール  
は堅固な構造として建設されてなかったた  
め、レンガと鉄骨による組み構造としてよ  
り早く完成することが望まれていた。ベル  
リンの建築家ブルーノ・メーリング  
(1863～1929 年) は、当時流行のアー  
ルヌーボー様式の装飾を機械ホールに施し  
た。ステンドグラスと湾曲した天蓋の正面  
玄関が特徴的な姿を見せている。



【写真 2】ツォレルン炭鉱 II/IV の機械室と立坑槽  
(2015/08/24 筆者撮影)

2009 年から、機械ホールは完全に改装され、復元工事が始まったが、2010 年 11 月の機械ホールの屋根  
への暴風雨による損傷により、その完成は遅れた。2016 年 9 月 11 日より、機械ホールは再び一般公開され  
ている。

### (3) 景観公園デュイスブルク・ノルト Landschaftspark Duisburg-Nord

景観公園デュイスブルク・ノルトは、IBA Emscherpark (国際建築展エムシャーパーク) の一部として創  
設された。デュイスブルク・マイデリッヒの廃止された製鉄所の周りの約 180 ヘクタールの景観公園(ラン  
ドスケープパーク)です。景観公園は、産業文化ルートのアンカーポイントの 1 つであり、ビジターセンタ  
ーも置かれている。

工場は、1901年にティッセン・グループの子会社であったライニッシュ製鉄所によって設立された。84年の間に、5つの高炉は、通常、ティッセン製鉄所でのさらなる加工の前工程として、3,700万トンの特種な銑鉄を生産した。

高炉3と4は、それぞれ1968年と1970年に取り壊された。高炉1と2は1982年に停止し、1973年に建設されたばかりの高炉5だけが稼働した。1985年、わずか12年間の操業の後、欧州の鉄鋼市場の過剰生産能力のために閉鎖された。

その後、国際建築展エムシャーパークにより、残りの3つの高炉プロジェクトが宣伝され、国際的な建築コンペティションで景観建築家のピーター・ラッツとそのパートナーが受賞した。1990年から1999年にかけて、ホール、建物、屋外エリアは建築家の計画に従って再設計され、再利用可能となり、公園は現在、景観建築の最も重要なプロジェクトの一つとなっている。1994年、公園は一般公開された。



[写真3] 景観公園デュイスブルク・ノルト内の高炉

(2019/08/24 筆者撮影)

### 3-4 パノラマビューポイント

パノラマビューポイントは次の17地点が指定されている。ドイツ語のHaldeは、炭鉱のぼた山を指す。小高い丘は、ルールの産業景観の眺望に適した地点となっている。パノラマビューポイント以外にもガスマーターや高炉の頂点に上れば、パノラマビューが楽しめる。

- (1) Halde Rheinelbe, Gelsenkirchen
- (2) Tippelsberg, Bochum
- (3) Landschaftspark Hoheward, Herten, Recklinghausen mit den Halden Hoppenbruch/Hoheward
- (4) Halde Schwerin, Castrop-Rauxel
- (5) Halde Großes Holz, Bergkamen
- (6) Kissinger Höhe, Hamm
- (7) Fernsehturm Florian, Dortmund
- (8) Hohensyburg, Dortmund
- (9) Berger-Denkmal, Witten
- (10) Tiger & Turtle, Duisburg
- (11) Halde Rheinpreußen, Moers
- (12) Halde Pattberg, Moers
- (13) Alsumer Berg, Duisburg
- (14) Halde Haniel, Bottrop
- (15) Tetraeder, Bottrop
- (16) Halde Rungenberg, Gelsenkirchen
- (17) Schurenbachhalde, Essen

### 3-5 労働者住宅街

炭鉱や製鉄所で働く労働者のために、住宅街が計画的につくられた。産業文化ルートに指定されているのは次の17地区である。これらは次のテーマ別ルートに多く含まれている。



[写真3] アイゼンハイムの労働者住宅街

(2019/08/23 筆者撮影)

- (1) Flöz Dickebank, Gelsenkirchen
- (2) Dahlhauser Heide, Bochum
- (3) Teutoburgia, Herne-Börnig
- (4) Alte Kolonie Eving, Dortmund
- (5) Ziethenstraße der Zeche Preußen,  
Lünen
- (6) Lange Riege, Hagen-Eilpe
- (7) Altenhof II, Essen
- (8) Margarethenhöhe, Essen
- (9) Siedlung Rheinpreußen, Duisburg
- (10) Alt-Siedlung Friedrich-Heinrich,  
Kamp-Lintfort
- (11) Siedlung Eisenheim, Oberhausen
- (12) Gartenstadt Welheim, Bottrop
- (13) Siedlung Schüngelberg, Gelsenkirchen

### 3-6 テーマ別ルート

- (1) Duisburg: Stadt und Hafen デュイスブルク：街と港
- (2) Industrielle Kulturlandschaft Zollverein 産業文化景観ツォルフエライン
- (3) Duisburg: Industriekultur am Rhein デュイスブルク：ライン川沿岸の産業文化
- (4) Oberhausen: Industrie macht Stadt オーバーハウゼン：産業都市
- (5) Krupp und die Stadt Essen クルップと都市エッセン
- (6) Dortmund: Dreiklang Kohle, Stahl und Bier ドルトムント：コークス、鋼鉄、ビールの3和音
- (7) Industriekultur an der Lippe リッペの産業文化
- (8) Erzbahn-Emscherbruch 鉱山鉄道エムシャー支線
- (9) Industriekultur an Volme und Ennepe フォルメとエネッペの産業文化
- (10) Sole, Dampf und Kohle 塩水、蒸気、石炭
- (11) Frühe Industrialisierung 工業化の初期
- (12) Geschichte und Gegenwart der Ruhr ルール地方の歴史と現在
- (13) Auf dem Weg zur blauen Emscher 青きエムシャー川への途中で
- (14) Kanäle und Schifffahrt 運河と舟運
- (15) Bahnen im Revier 地域の鉄道
- (16) Westfälische Bergbauroute ヴェストファーレン鉱山ルート
- (17) Rheinische Bergbauroute ライン鉱山ルート
- (18) Chemie, Glas und Energie 化学、ガラス、エネルギー
- (19) Arbeitersiedlungen 労働者住宅街
- (20) Unternehmervillen 企業家の高級住宅
- (21) Brot, Korn und Bier パン、小麦、ビール
- (22) Mythos Ruhrgebiet ルール地方の神話
- (23) Parks und Gärten 公園と庭園
- (24) Industrienatur 産業と自然
- (25) Panoramen und Landmarken パノラマとランドマーク
- (26) Sakralbauten 宗教建築物
- (27) Route der Industriekultur – Eisen & Stahl 産業文化ルートー鉄と鋼
- (28) Wasser: Werke, Türme und Turbinen 水：プラント、給水塔、水力タービン

### 4. まとめ –産業文化ルートの成果と今後の研究課題–

産業文化ルートは、産業遺産を観光資源として活用し、観光ルートとして様々な媒体、出版とインターネ

ットのWEBサイトを通して広く  
 広報することにより、完全な成功  
 を収めた。

RVRが産業文化ルートの経済  
 的重要性について、その調査研究  
 を委託されたDwif-Consulting  
 GmbHの2017年の報告書によれ  
 ば、表に示すように、25のアン  
 カーポイントの訪問者数は  
 7,255,520人である。産業文化ル  
 ート発足時の当初の240万人か  
 ら700万人以上に増加し、2017  
 年には約3倍の訪問者数となっ  
 ている。これらの数字は、ルール地  
 方の産業遺産を保存することの重  
 要性に加えて、それを観光資源と  
 活用することにより、それはまた  
 強い経済的効果をもたらしてい  
 る。同報告書では、産業文化ル  
 ートの観光施設での総売り上げ高  
 は、約2億8,500万ユーロで、大  
 きな経済効果があると述べてい  
 る。経済効果とともに、少なくと  
 も6,150人の雇用効果を引き起こ  
 している。

Dwifの調査結果は、産業文化  
 ルートが文化的で観光的なものだ  
 けではないことを示し、観光事業  
 として成功するだけでなく、かな  
 りの付加価値、雇用、経済効果を  
 引き起こしたことを示している。

欧州評議会 Council of Europe は、欧州評議会創設 50 周年と「ヨーロッパ建築遺産年 1975」25 周年の  
 2000 年のミレニアムを祝うために、1999 年に加盟国に「ヨーロッパ、共通の遺産」というキャンペーンへ  
 の参加を求めている。ノルトライン・ヴェストファーレン州の都市開発と記念物保護省は、このキャンペ  
 ーンへの参加のプロジェクトのアイデアを州内の関係各機関に求めた。

ドイツ産業文化協会(DGfI、現在は解散)は、観光ブランドとしての産業遺産の確立を支援する汎ヨー  
 ッパネットワークの構築を提案した。このプロジェクトアイデアは、すでに構築されていた産業文化ルート  
 がベースであった。この提案に、ドイツ、イギリス、ベルギー、オランダが賛同し、2001年12月、デュ  
 イスブルクでの会議に ERIH 基本計画が提案されて、欧州評議会のプロジェクトとして承認された。ERIH  
 は、現在 30 カ国に及んでいるが、それぞれの国において、ERIH がどのように展開し、それが産業遺産や  
 環境保全、観光資源としてのいかなる経済効果をもたらしたのか、については今後の研究課題である。

ルール地方の産業文化ルートは、現在はヨーロッパ産業遺産ルート ERIH の地域ルートのひとつなっている。

Ankerpunkt	Besucher
1 Aquarius-Wassermuseum, Mülheim an der Ruhr	33,481
2 Chemiepark, Marl	9,500
3 DASA Arbeitswelt Ausstellung, Dortmund	209,203
4 Deutsches Bergbaumuseum, Bochum	139,700
5 Eisenbahnmuseum, Bochum	65,306
6 Freilichtmuseum, Hagen	137,137
7 Gasometer, Oberhausen	607,175
8 Henrichshütte, Hattingen	121,303
9 Hohenhof, Hagen	3,616
10 Innenhafen, Duisburg	1,000,000
11 Jahrhunderthalle, Bochum	201,640
12 Kokerei Hansa, Dortmund	173,000
13 Landschaftspark Duisburg-Nord, Duisburg	1,233,609
14 Lindenbrauerei, Unna	120,000
15 Maximilianpark, Hamm	440,000
16 Museum der Deutschen Binnenschifffahrt, Duisburg	30,913
17 Nordsternpark, Gelsenkirchen	450,000
18 Schiffshebewerk Henrichenburg, Waltrop	94,436
19 Umspannwerk, Recklinghausen	28,164
20 UNESCO-Welterbe Zeche Zollverein, Essen	1,500,000
21 Villa Hügel, Essen	97,408
22 Zeche Ewald, Herten	200,000
23 Zeche Nachtigall, Witten	39,092
24 Zeche Zollern, Dortmund	116,515
25 Zinkfabrik Altenberg, Oberhausen	204,322
Summe (合計)	7,255,520

[表 1] 2017 年のアンカーポイントの来訪者数

参考文献(5) DWIF 報告より、筆者作成

#### 参考文献とWEB サイト

- (1) ヨーロッパ産業遺産ルート ERIH の URL; <https://www.erih.net/> (2022/02/22 現在)
- (2) 産業文化ルート Route der Industriekultur の URL;  
<https://www.route-industriekultur.ruhr/> (2022/02/22 現在)



- (3) 国際建築展 IBA の URL; <https://www.internationale-bauausstellungen.de/> (2022/02/22 現在)
- (4) WOLFGANG EBERT: A Quality Tourism Brand for the Whole of Europe, 2008
- (5) DWIF-CONSULTING GMBH: Ökonomische Effekte der Route der Industriekultur, 2018
- (6) European Route of Industrial Heritage: Executive Summary, "Our Common European Heritage", 2001
- (7) ANNA STORM: Hope and Lust, Reinterpreting the industrial place in the late 20th century, 2008
- (8) NORBERT BOLZ, HERMANN STURM: Inszenierte Industrie in derpostindustriellen Stadt, Vom Umgang mit stillgelegten Industrieanlagen, 200